

# 12. 諫早湾干拓調整池の水質は悪くない

調整池の水質は有明海に流れ込む河川の水質と比べてみても、決して悪くありません。



潮受堤防の内と外で水の色が異なって見えるのは淡水と海水の違いと、調整池は深いところで4m、平均で約1.4mと水深が浅く、湖底のガタ土が波浪によりまき上がり漂うため、濁って見えるのです

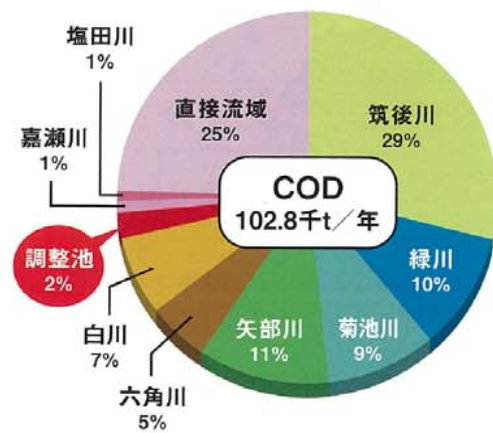
## 調整池の水質は

様々なデータから見ても、諫早湾干拓の調整池の水質が、とりわけ悪いという事実はありません。

## 汚濁負荷量は、有明海流域の2%

調整池の流域面積は3%ながらCOD負荷量は、有明海流域の2%にしか過ぎません。有明海全体に決定的な影響を与えているとは言えません。

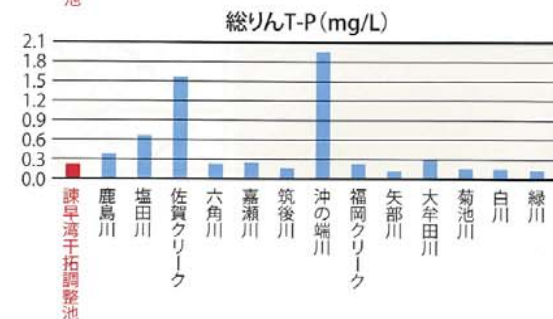
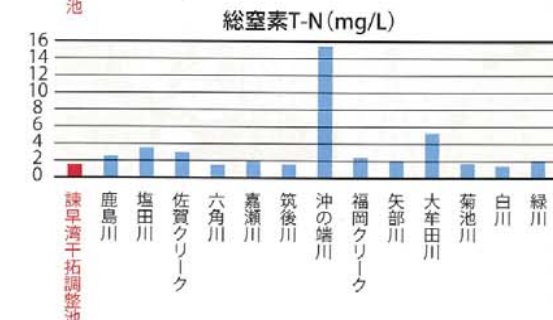
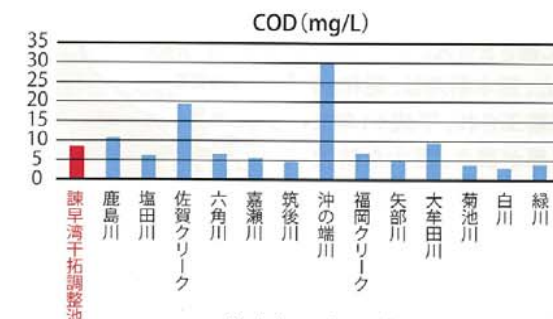
〈有明海における流域別負荷量〉  
有明海に流入するCOD負荷量全体に占める各河川の割合



【出典】有明海海域環境調査報告書(平成15年)より作成

## 有機汚濁物質の量は低い数値

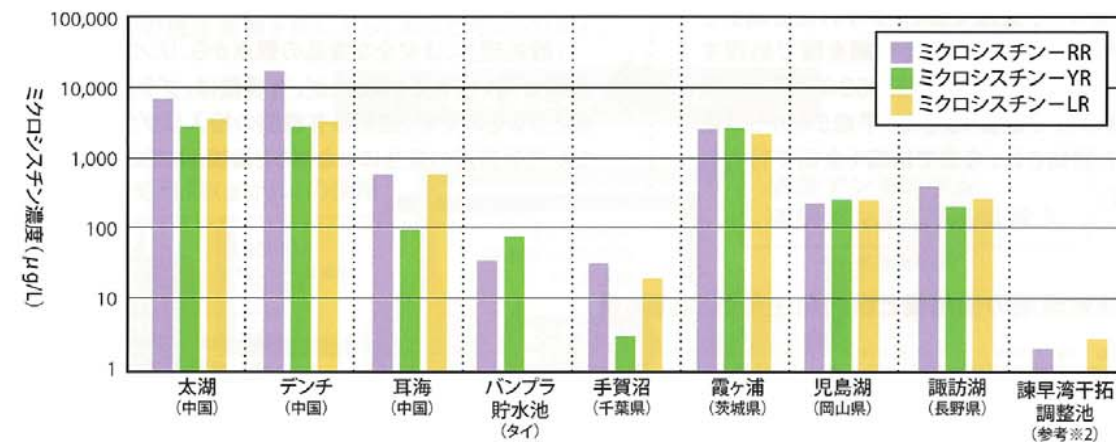
有機汚濁物質の量を示すCODは、「佐賀クリーク」の3分の1に過ぎず、窒素で2分の1、リンは7分の1に過ぎません。



〈調整池と有明海流入河川河口部の代表地点等との水質比較〉  
注) 河川水質:平成9~20年度の平均値 クリーク水質:平成14~20年度の平均値

## アオコの発生量

アオコの発生量を示す目安である「マイクロシスチン濃度」を比較すると、諏訪湖(長野県)の40分の1、霞ヶ浦(茨城県)の200分の1に過ぎません。



出所:独立行政法人国立環境研究所 公開シンポジウム2002  
国際的水環境の修復-バイオ・エコエンジニアという技術- 循環型社会形成推進・廃棄物研究センター 稲森悠平より作成  
※1:マイクロシスチン濃度はアオコの集積域における測定値 ※2:諫早湾干拓事務所調査結果(H19.11.26)  
〈日本、中国、タイの湖沼のマイクロシスチン濃度〉

## 潮受堤防排水門付近で採れたカキ等にアオコの毒素が検出されたとする調査結果を受け、分析の結果、すべてが定量下限値未満

アオコも問題になるレベルではなく、諫早湾干拓が、他の排出源と比較し、特に大きな環境負荷をかけている事実はありません。諫早湾干拓のみが有明海に決定的な影響をもたらしているといえるのでしょうか。

〈諫早湾カキのマイクロシスチン濃度:平成22年長崎県調査〉

分析地点 排水門付近を含む諫早湾内6地点

分析方法 LC/MS/MS法およびELISA法

分析結果 すべて定量下限値未満 (LC/MS/MS法 0.1µg/g, ELISA法 0.05µg/g)

## 調整池の水で栽培した農産物は安全

アオコが発生した調整池の水で栽培したハクサイ、ジャガイモ収穫物と栽培土壌中のマイクロシスチンの含有分析を行った結果、収穫物及び土壌いずれのマイクロシスチン(LR)濃度も0.01mg/kg未満(測定限界値未満)であり、検出不能でした。